

2017 アートマイル国際交流壁画共同制作プロジェクト 報告書

日本学校名 [宮城県富谷高等学校] 担当教諭名 [関口 聡・八島 美央] (ECC 国際部・有志 12名)

交流相手国 [パキスタン]

海外学校名 [Modernage Public School & Girls College, Abbottabad] 担当教諭名 [Mehreen Ansar]

■実施教科・時間数について教えてください。

アートマイルに関連した 実施教科・時間数	教科	単元名	時間数
	部活動・有志	富谷高校アートマイル班(ECC 国際部・有志生徒)	30

■作品に込めた想いについて教えてください。

題 (テーマ)	Women's Empowerment
<p>メッセージ (相手と想いを合わせて 世界に発信したいメッセージ)</p>	<p>とても難しいテーマになったが、女性が社会的地位や権利を持つ上で一番大事なことは、日本やパキスタンなど、置かれた立場や環境が異なった場合でも共通することは『バランス』であると考えた。全体的な構図としては、パキスタンの国旗をモチーフにして、緑と白を基調とした。その周囲には、国花であるジャスミンを描いた。花言葉は『優美』ということもあり、女性のテーマにも合うと考えたからだ。パキスタンにおいて、国旗の三日月は『進歩』を表すが、そこに座る女性には、『バランス』を意味する天秤を持たせた。バランスを表すものとして、「女性 VS 男性」、「教育の権利 VS 制圧する武力」、「都会 VS 田舎」、「社会 VS 家庭」などの観点から捉え、子どもを抱く女性や農作業をする女性と男性と一緒に仕事をする女性の対比、パキスタン伝統の寺院と近代パキスタン象徴の塔の対比、パキスタン出身のマララさんのスピーチから、ペンと銃の対比などを描いた。バランスをとりながら進歩する女性を理想としている絵となった。</p>

本校担当部分(相手校が持ってくれています)



完成作品(昇降口に掲示)



■今回の取り組みの成果と課題はどういった点でしょうか？

成 果	課 題
<p>今年は3回目のアートマイル参加になるが、今年も自国について描くのではなく、相手国について調べたことを自分達なりに解釈して描き合う、という流れになるようにパキスタンにお願いをした。これにより、本校のテーマにも掲げている「異文化理解」の一助となった。また、宮城県在住のパキスタン人の女性留学生を講師に招き、パキスタンについての話を伺ったことも、良い経験になった。他に、マララさんの映画をメンバーで鑑賞したことも、女性と教育や権利について、改めて考える機会となった。これらのことは大きな成果であったと考える。</p> <p>また、生徒同士をパートナーとしてペアを組ませてメッセージをやり取りしたことや、初めてスカイプで交流をする機会を持てたことも、顔を見て交流が出来たので、大変意義のあるものであった。</p>	<p>過去2年間の課題は、県のシステムルールでスカイプやTV会議が使用できない、ということであった。今年はそれを解消することが課題であった。そんな中で、東北学院大学の稲垣教授のご厚意により、スカイプを実施することができた。しかしこれは、今年度限りなので、今後も同じ課題を抱えていることには変わりはない。また、今年は、アートマイルを担当する教員が海外出張と体調不良などで、特定の期間にフォーラムの確認が出来なかった。それにより、相手国に不安な思いをさせ、意思疎通にズレが生じる危険性があった。しかし、事務局の方々にお世話になり、その後の調整がうまく出来た。学校全体又は授業としてアートマイルに取り組んでいる学校には無縁の心配であるが、本校のように、放課後の部活動の一部として、活動に参加している場合には、担当者以外に対応する者がいないことは今後の課題になると思う。</p>

■アートマイルに取り組む前と比べて相手の国・地域や世界に対しての意識はどう変わりましたか？

児童生徒の意識の変化	教師の意識の変化
<p>パートナー校が決まった段階では、パキスタンという国について、「何も分からない」という反応で、自信がないという発言もあった。しかし、パキスタンからフォーラム上に沢山の写真や言葉を送ってもらい、その後、学びの時間を持つうちに、知識として知っていたパキスタンという国について、実感を伴うイメージを持ち始めたような様子がみられた。具体的には、絵のモチーフや構図を考える上で、こちらが与えたものではない視点から、絵の題材を見つけ出して下絵を完成させるなど、実感から得たことから行動することが出来た点である。また、スカイプ実施時の生徒達の表情は、これまでに私が見たこともないような生き生きとしたものであった。さらに、パートナーからの手作りカードを手にした時にも、「すごく温かい人達だね」「私達も何かお返ししたいね」という声が聞こえた。今年の交流では、遠くにいる同世代同士で、これまで以上に温かいやり取りが出来たように思う。</p>	<p>生徒には、知識だけではなく、実感を伴う体験をさせる機会を与えてあげたいというのが、教師として常日頃考えていることであるが、今年は、もう1つ先の目標が生まれた。それは、生徒の実感から生まれたものを元に、自分達で何か行動をおこしてもらいたいと考えるようになったことだ。これが、教師側の意識の変化である。私個人としても、過去2年間のアートマイル活動では、いかに滞りなく完成までこぎつけるか、ということに細心の注意を払うような部分があったが、今回は、それ以外のことも考えることが出来た。例えば、フォーラムでのやり取りも、作業を進める上で必要なことでなくても、私達の状況を知ってもらいたいという気持ちだけで送った投稿もさせていただいた。遠回りになるかもしれないが、フォーラムの投稿回数を重ねたり、メールの回数を増やすことで、心を通わせることに近づいていくことを実感できた年になった。</p>

■主な活動の流れを教えてください。

場面	時期	活動内容	児童生徒の反応	実施教科等
<p>出会い 自己紹介</p>	<p>7月 ～ 10月</p>	<ul style="list-style-type: none"> 日本や自分達の紹介をした。送ったものは「学校行事の写真」「校舎のドローン撮影動画」「メンバー全員の集合写真」「手書きの自己紹介カード」などである。 パキスタンのメンバー写真を載せたポスターを作成し、全校生徒に活動についてお知らせをした。 	<ul style="list-style-type: none"> 相手国から送られてきたメンバー写真にとっても喜んでいて。相手の自己紹介の中の、趣味や将来の夢について、同世代の同性として、どこの国でも同じような考えがあることに、驚いたり新鮮な気持ちを抱いたりしていた。 	<p>部活動 有志活動 6</p>
<p>共有 テーマ学習</p>	<p>10月 ～ 12月</p>	<ul style="list-style-type: none"> 相手の国について調べた。その内容を、文化祭にて発表した。 日本在住のパキスタンの方をお招きして、講義をしていただいた。 相手校メンバーとは、スカイプで交流をした。 	<ul style="list-style-type: none"> 最終的に発表をするということで、自分達なりにとてもよく調べていた。 在日パキスタン人としての日本に対する気持ちなど、調べ学習では知り得なかったことを知ることができた。 相手からの応答に喜び、交流を実感していたようだった。 	<p>部活動 有志活動 7</p>
<p>融合 想いを形に ・メッセージ ・壁面デザイン</p>	<p>12月</p>	<ul style="list-style-type: none"> 構図については、国旗をモチーフにしたいことを提案し、それ以外のモチーフについては、下絵を描いて、スカイプで提案した。 お互いが調べた相手国について、各自の視点で描く、という考えで思いを合わせた。 	<ul style="list-style-type: none"> テーマや構図を決める上で、生徒達に話し合いの場を持たせた。こちらが予想していた以上の思いがあり、あっという間に絵のアイデアが生まれた。 	<p>部活動 有志活動 6</p>

創造 壁画制作	12月 1月	<ul style="list-style-type: none"> ・自分達がイメージするパキスタンを元に、日本側のテーマを『バランス』と決定した。グループ毎にスケッチさせて、それを元に下書きをした。 ・パキスタンの国旗の色を下地として、色塗りをした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・天秤や銃や鉛筆などの絵の印象を変える小物のイメージや、国花の花言葉などの発想が生まれ、メンバー同士で共感する姿が印象的であった。 ・絵を描くことは苦手であるメンバーではあるが、楽しく作業を進めていた。 	部活動 有志活動 8
評価 振り返り 自己評価	3月	<ul style="list-style-type: none"> ・一般の生徒やゲストにも見えるように、作品を昇降口に掲示した。そこに活動内容や作品解説、また、パキスタンの生徒達から届いたメッセージカードや贈り物も一緒に展示した。 ・ニューズレターにも特集をくみ、校内外にも取り組みを知らせた。 ・生徒達には、活動の自己評価や感想などを書いてもらった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動に関わらなかった一般の生徒や教員からは、「素敵な贈り物ですね」というような声が聞こえ、パキスタンの先生と生徒達の温かさを感じてもらえた。 ・活動メンバーの中には、一部昨年度も関わった生徒もいたが、その生徒は、スカイプや贈り物のやり取りが出来たという点で、多くのものを得たと言っていた。 	部活動 有志活動 3

■アートマイルでついた力について教えてください。

評価 (5:とてもついた 4:ついた 3:どちらともいえない 2:あまりつかなかった 1:つかなかった)

学習目標・つきたい力	評価	先生が手応えを感じた場面・理由
自文化を理解する力	3	今年のテーマについては、自文化の理解は重視するものではなかったため。
異文化を理解する力	5	インターネットや相手国からの情報、在日パキスタン留学生の講話など、様々な機会が得られたため。
情報活用能力 (収集・まとめ・発信)	4	インターネットなどの媒体を用いて、相手国やアートマイルについても調べて文化祭で発表し、全校生徒に発信をしたため。
コミュニケーション力 (双方向・共感・英語)	4	スカイプを実施したが、音が途切れたり反響したりして、聞き取ることが出来なかったが、昨年まで取り組めなかったことを実施したのは大きな収穫であるため。
批判的に思考する力 (客観的・論理的視点)	1	相手国をメインに考えていたため、日本における女性の社会的な立場について振り返る時間を持たなかったため。
主体的に考え行動する力	4	テーマを設定して学習期間を経てからは、自分達で話し合いを持ち、テーマのねらいに向けたアイデアに結びつけることができたため。
他者と協働する力 (学級内・海外の相手)	4	各々の得意な分野を生かして作業分担をすることができたため。パキスタンの相手とも、思いを寄せ合うことができたため。
思いを言葉や形にする力 (メッセージ作成・壁画制作)	3	描きたきことや表現したいことを、メッセージにすることはできたが、作画するのが苦手であったため。
評価する力 (作品の鑑賞・学習の自己評価)	3	生徒達の感想では、英語の能力を中心としたコミュニケーションについての自己評価が低かったため。生徒には、この経験を今後の人生の励みやきっかけに出来るような方向にもっていけるような仕掛けをしながら、評価させる形を工夫していきたい。